

(川辺郡知覧町大字東別府字永野)

位置と環境

遺跡は町の中心部から南東約6kmの位置にあり、喜入町と穎娃町、知覧町三町に接する山地にかこまれ、西に開けた標高約230mの台地末端部に立地している。近くには「かくれ念仏」の洞窟遺跡、「盗人穴」も存在する。

調査の経緯

穎娃町源川出身の研究者川辺信夫によって、発見された遺跡である。昭和29年(1954)に河口貞徳によって学術調査が実施された。昭和57(1982)、遺跡地内の農免農道整備事業に伴い知覧町教育委員会が調査主体となり、鹿児島県教育委員会の協力を得て、発掘調査(約690㎡)を実施した。

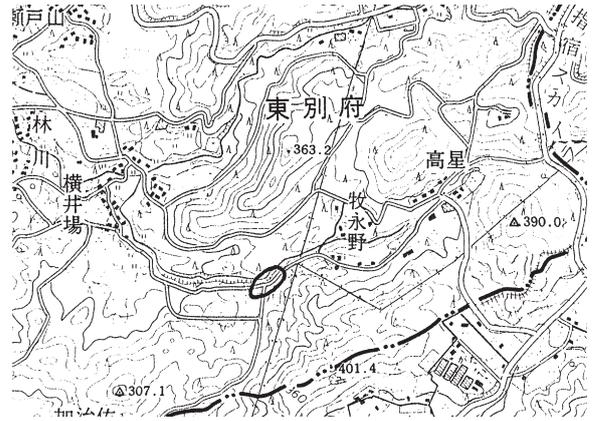
遺構と遺物

灰コラ層(開聞岳火山灰)の上層から成川式土器や弥生時代前期の甕型土器、縄文時代晩期の夜臼式土器、黒川式土器、組織痕土器などが出土している。灰コラ層とアカホヤ火山灰層の間からは、縄文時代中期～前期の春日式土器が出土し、前期の曾畑式土器、轟式土器、それに集石遺構1基が発見されている。

アカホヤ火山灰層と当遺跡の基盤となる阿多溶結凝灰岩の間からは、平椀式土器3片と貝殻腹縁による刺突文と下腹部に条痕文を施した円筒形平底の波状口縁土器で新型式土器(第2図)の完形品が出土している。さらに当遺跡で最も多く発見されている前平式土器(円筒形と角筒形波状口縁の土器第5図～8図)時期の集石5基と局部磨製石斧、石鏃(第9図)、磨石、石皿などの石器や、それに炭化した木の実等も出土している。

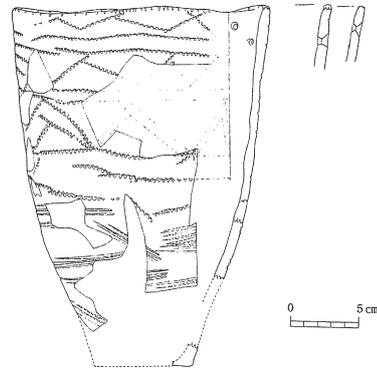
特徴

縄文時代早期・前期・晩期・弥生時代前期、古墳時代にわたる複合遺跡である。前平式土器は鹿児島市吉野の雀ヶ宮にある前平遺跡を標識とするが、この土器の全容が把握されたのは、1977年始良郡溝辺町桑ノ丸遺跡が最初であったが、それに続いて、貝殻施文の円筒形平底の器形に角筒形波状口縁の器形



第1図 永野遺跡の位置

が加わることが明らかになり、縄文時代早期前半の特徴ある土器群の存在がさらに裏付けられた。また、器形全体に貝殻腹縁による刺突文を施す深鉢形平底土器(Ⅸ類土器)の発見は、貝殻文系円筒土器以後



第2図 Ⅸ類土器(アカホヤ下層出土)

の南九州の土器型式を繋ぐうえで注目できる。

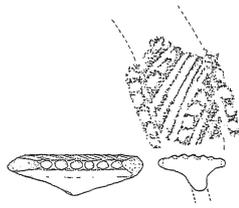
資料の所在

出土遺物は、ミュージアム知覧(知覧町立博物館・H5年開館)に一部は展示され、そのほかの資料は収蔵庫に保管されている。

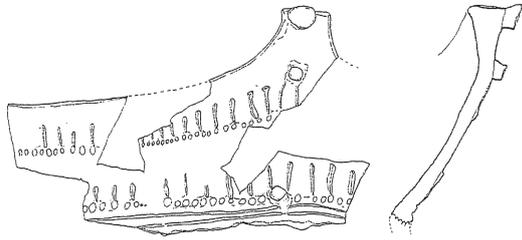
参考文献

知覧町教育委員会1983「永野遺跡」『知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書』第1集

(上田 耕)



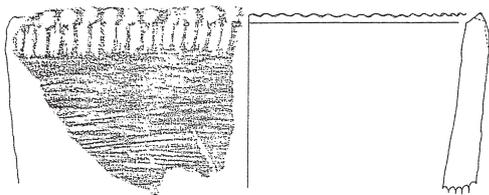
第3図 異形土器 (アカホヤ上層出土)



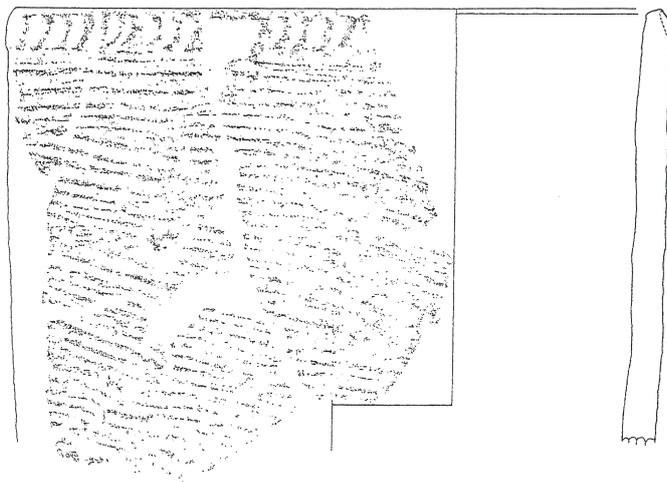
第4図 IV類土器 (アカホヤ上層出土)



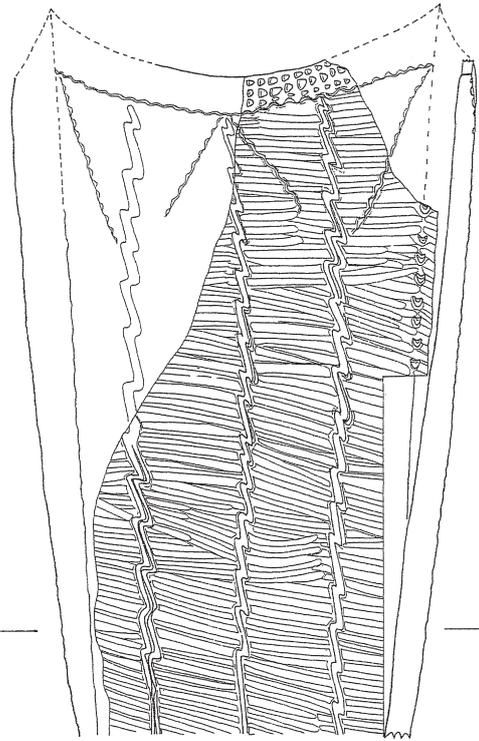
第5図 X類土器5 (前平式土器)



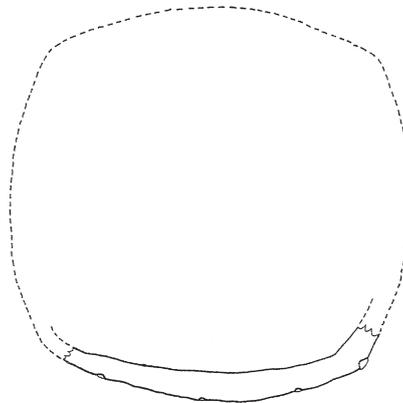
第6図 X類土器4 (前平式土器)



第7図 X類土器5 (前平式土器)



第8図 XI B類土器 (前平式土器)



第9図 石鏃・石匙

